

世界に誇る「ノリタケ」の美

一枚の皿に込めた想いが、世界を魅了する

ノリタケの森

1 一枚の皿から始まった歴史

森村市左衛門が、1876年東京銀座に「森村組」を創業し、弟の豊(とよ)とともにニューヨークで輸入雑貨店「モリムラブラザーズ」をスタートさせたことが始まりである。やがて森村組は、商売の拡大のために洋食器を日本で製造して輸出することを決定し、1904(明治37)年に「日本陶器合名会社」を創立した。

2 世界のノリタケへ

第二次世界大戦後、ノリタケは直ちに食器生産を再開し、1947年にいち早く輸出をスタートした。ノリタケをはじめとして陶磁器業界の輸出量は年々増大し、輸出品の花形となった。その後も増加は続き、ノリタケの食器輸出額は年間100億円を超え、1981年には150億円に達し、「世界のノリタケ」といわれるまでに成長した。

3 ノリタケの「裏印」

裏印に「NORITAKE」の表示が登場したのは、1908(明治41)年。その4年前、日本陶器が創立された愛知県愛知郡鷹場村則武の地名が「ノリタケ」ブランドの由来となった。

4 オールドノリタケ

森村組と日本陶器によって、明治中期から第二次世界大戦終結までの間に製造された陶器を「オールドノリタケ」と呼ぶ。1970年代、アメリカで生まれ販売を始めて100年近くなり、初期の製品が「アンティーク」としてコレクションされることを見込んでブームが起きたからだ。

Noritake